

業務用ナバナの有望品種の選定と栽培技術の開発

農業試験場 研究員 嶋本 旭寿

【要約】

業務用ナバナの有望品種として、実需期（2月～ひな祭り）に収量が多い‘CR栄華’と、収量が多く規格外品の発生が少ない‘CR花かんざし’の2品種を選定した。両品種は収穫時期に数日のズレがあることから、組み合わせで栽培することで収穫労力の分散が図られると考えられた。また、株間35cmで多収となることが明らかになった。

【背景・ねらい】

本県では業務用ナバナとして‘寒咲21号’が広く栽培されているが、実需期に安定的な収量が得られないことから、新たな品種の導入が求められている。そこで、‘寒咲21号’より収量性の高い品種を選定するため品種比較試験を行った。また、反収の増加を目的に株間を変えた栽植密度試験を行った。

【成果の内容・特徴】

1、品種比較試験（2017年度試験）

- ・規格品総収量は‘CR栄華’と‘CR花かんざし’が対照‘寒咲21号’を上回った（表1）。
- ・2月の規格品収量が多かった‘CR栄華’と、規格品総収量の多さに加えて規格外品収量が最も少なかった‘CR花かんざし’を有望品種に選定した（表1）。

2、栽植密度試験（2018年度試験）

- ・両品種ともに、株間が広いほど規格品本数が増加することで、規格品収量が増加したが、反収は株間35cmでやや多かった（表2）。
- ・‘CR花かんざし’は‘CR栄華’と比べて収穫時期が数日前進傾向であったことから、両品種を組み合わせで栽培することで、安定した収量を確保しつつ、収穫労力の分散が図られると考えられた（図1）。

表1 品種および時期別の収量

品種	総収量	規格品(g/株)			規格外品収量(g/株)
		1月収量	2月収量	3月収量	
CR栄華	363	27	118	218	29
CR花かんざし	365	100	74	192	3
CR華の舞	291	4	70	216	11
花娘	306	13	99	193	34
寒咲21号(対照)	353	115	47	191	33

定植日：2017年10月10日、株間：35cm

表2 品種および株間別の収量

品種	株間(cm)	規格品本数(本/株)	規格品収量(g/株)	反あたり収量(kg/10a)	規格外品収量(g/株)
	40	83	450	1125	32.7
	45	94	507	1125	46.7
CR花かんざし	35	72	408	1164	9.0
	40	77	447	1117	11.5
	45	88	500	1111	9.3

定植日：2018年10月16日

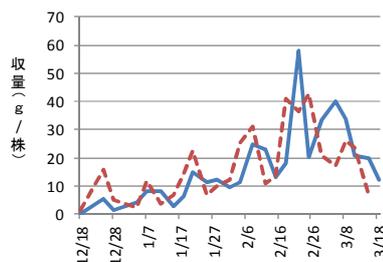


図1 品種および時期別の規格品収量(2018年度)
※実線：‘CR栄華’、点線‘CR花かんざし’